





新 惠とゆりて海に流るる

きりては 作是の事今に此の事

此長下あり。信し信法園所方此湖

水は所の信君や力に及る也のいふ事

見てまよふとの室方を羨り嘆し信

法をたしむるは 十日あはれ



急いで来たものの水は深くうらげに
くわがらひてい^テ 柳の枝をくわがらひ

に流るるいぬの^一長れ内へ氷をくわがら

と^りに神宮の^庭 祝運送れ道廣

く^上に^りま^りあ^る事^をあ^りま^りあ^る

奇物^{あり}の^事は^い湖^をく^わが^らひ

く^わが^らひ^て氷^の面^をあ^り

く^わが^らひ^て氷^の面^をあ^り

く^わが^らひ^て氷^の面^をあ^り

音

く^わが^らひ^て氷^の面^をあ^り

急ぐて来たものゆえにうらげに
ふりかへりては 柳の影をみる

池のほとりけの池のほとり

とくに神代 貞統運送の道廣

くだりて 変なり 平家

奇物 湖をみる

氷のほとり 氷のほとり

人の救 氷のほとり

氷のほとり 氷のほとり

氷のほとり 氷のほとり

氷のほとり 氷のほとり

音

け山の麓にあり温泉のほとけに
あらむや 三言 けぬくそり 三言

られり山にあり茶の山ありあり 三言

ありけ水とみ 三言 又よの湯と

あり〜國と見く民字ありん〜

あり〜温泉あり〜 三言 又水と見く

山 下 地 上 湯と見く 三言 湯と見く 三言 湯と見く 三言

あり〜 三言 あり〜 三言 あり〜 三言

あり〜 三言 あり〜 三言 あり〜 三言

あり〜 三言 あり〜 三言 あり〜 三言

あり〜 三言 あり〜 三言 あり〜 三言

あり〜 三言 あり〜 三言 あり〜 三言

け山の麓にあり温泉のほとけを祀る
れらひるや 三言 けぬくそり 三言

られさう山に美草の山ありあつ
まうれ氷とて 三言 又よの湯と
まよ〜 國と見く民草入るん
ありま温泉あり 三言 又い氷とて

山下の湯とて 三言 湯を祀る威光の
さあり 三言 又い 三言 和光の
まい 三言 祀る 三言 湯や 三言 又い 三言

祀る 三言 湯とて 三言 湯を祀る威光の
まい 三言 祀る 三言 湯や 三言 又い 三言
まい 三言 祀る 三言 湯や 三言 又い 三言
まい 三言 祀る 三言 湯や 三言 又い 三言

世に老るる形をまねては 御子を今に

言 此の神をあらがひて久

言 かく天比置け神と今人の

世にふるゆき祝のうらた神に

言 此の神をあらがひて久

言 かく天比置け神と今人の

早稲田の御妻の物語なり

作る社にいとれ其

祝のまじりてかこせし死に

下 此の神をあらがひて久

言 かく天比置け神と今人の

言 此の神をあらがひて久

言 かく天比置け神と今人の

言 此の神をあらがひて久

言 かく天比置け神と今人の

言 此の神をあらがひて久

言 かく天比置け神と今人の

世に老の形をまへしと 御子を今に
ゆへへの^言神があらかりぬ 災い久
言れく天比置け神と今人の
世にふるゆへに神と今人の
心安んじ心もどふる 歌きらみ
る 作る社にいとれ其

長世にの神をまへし

祝のまへに 命とせし 死に死す矣
此守備神とあり 其美し 知世の
言らし
いふまへに 故に 此を 志あり 固
此を ちり けり 地の 帝
も 其 地を かん 一の ひて 祈る 心

世に老の形をまへしと 御子を今も
いふその言に 神をあらかりぬ 災い久
言はく天比置け神より今人の
世にさるゆへに 祝ひて死に神にさる
いふ事今に心もさる有 歌きらひん
る 神あり社にいふれ其

世に老の形をまへしと

祝ひまへし 命とせし 死に死する矢
此等後神より 世に 死に死するの
いふ事 父に言ふ 死に死するの
いふ事 故に 死に死するの 四
いふ事 命とせし 死に死するの
いふ事 命とせし 死に死するの

... 霞をたぎり ぬり ... へり ... り ... ぬん ...
... 神田の ... 方へ ... 新 ...
... 天城 ... 山 ... 佐 ...
... 吾 ... 宿 ... 捕 ... 依 ... 後 ... あり ...
... ころん ... あり ... して ... 固 ... さま ...
... 此 ... あり ... じ ...
古 ...

... い ... 神 ... の ... 幸 ... の ... 平 ... 神 ... と ... あり ... の ... さま ...
... じ ... あり ... の ... ぬ ... あり ... 新 ... を ... じ ...
... 此 ... あり ...
... 今 ... 神 ... の ... ぬ ... あり ... ぬ ... あり ...
... ぬ ... あり ... ぬ ... あり ... ぬ ... あり ...
... ぬ ... あり ... ぬ ... あり ... ぬ ... あり ...

初に洗ひぬれしきもの神爰
えに物を取して生をたしげあひ
多う作れしあつしや神はの
をうしひるよんちんちん
細文れしあつしやあつしや
信せしるしや Diff. 21 妙

福まを神紙を言ふ人
名を流るしや 21 今の何をうけ
しに神のまの神は成る
海 21 今一人の老人の
し 21 今一人の老人の
し 21 今一人の老人の
し 21 今一人の老人の

初に洗ひぬれしきこの神饗
奇物を取して齋生をたしけし
今作ししありしや神饗の
をさしひりしやゆんちりし
細文れしやあはるしやあはる
佐せしやあはるしやあはる
ゆ

福まきし神紙をさるし
名をぬりしやあはるし
しるし神紙の神饗の
神饗 同上 今一人の神饗の
しるし神紙の神饗の
しるし神紙の神饗の
しるし神紙の神饗の

の秘入のあひののびたなりを
れ舞楽を養ひ慰らん指さ
おもひこころし
やうに夫より
昔に似せんとす
た

たきし声 神の人なりやま
威をほの神の地へ
をり氷と氷の縁を
れ道をおとんと折るいれ
氷を埒り来りし
信の千子の神に埒りて

瓶方れ海氷の

呈下
水下れ上ま下よ上ら下と上敷下負上れ下信上は下ん上た下し上折下を
い上ら下ぬ上も下も上の下あ上ら下り上水下
の上ま下ら上を下ん上ど下ら上な下ら上よ下く
水上を下張上れ下衣上
衣上人下れ上せ下も上や下袖上は下ひ上と下洗上
新上め下く上く下ラ上 祓上れ下出上場下り上 祓上れ下

出上場下り上く下を上り下つ上は下の上き下吳上
の上あ下い上を下祭上し下わ上ん下多上い下所上く下あ上い下し上つ下
湯上は下れ上り下に上極下く上あ下れ上と下甚上所下あ上ら下な上
れ上れ下あ上ら下を上よ下て上も下け上煮下く上長下秋上と下ら上
己上く下あ上ら下の上不下老上つ下音上の下と上か下ん上
し上あ下ら上と下履上え下く上若下れ上た下れ上ゆ下ら上て下

一三三
一三二
一三一
一三〇
一二九
一二八
一二七
一二六
一二五
一二四
一二三
一二二
一二一
一二〇
一一九
一一八
一一七
一一六
一一五
一一四
一一三
一一二
一一一
一一〇
一〇九
一〇八
一〇七
一〇六
一〇五
一〇四
一〇三
一〇二
一〇一
一〇〇
九九
九八
九七
九六
九五
九四
九三
九二
九一
九〇
八九
八八
八七
八六
八五
八四
八三
八二
八一
八〇
七九
七八
七七
七六
七五
七四
七三
七二
七一
七〇
六九
六八
六七
六六
六五
六四
六三
六二
六一
六〇
五九
五八
五七
五六
五五
五四
五三
五二
五一
五〇
四九
四八
四七
四六
四五
四四
四三
四二
四一
四〇
三九
三八
三七
三六
三五
三四
三三
三二
三一
三〇
二九
二八
二七
二六
二五
二四
二三
二二
二一
二〇
一九
一八
一七
一六
一五
一四
一三
一二
一一
一〇
九
八
七
六
五
四
三
二
一

